「当院における市大腸がん検診便潜血検査結果についての報告」

陽性率、精密検査受診率、陽性者の疾患、悪性疾患の場合の進行度について

医療法人財団中山会　八王子消化器病院　臨床検査科
京田 大樹　藤本 澪　山田 由佳子　富永 晋

【はじめに】

八王子市の大腸がん検診について、当院では１次スクリーニング検査としてラテックス凝集反応の免疫比濁法を測定原理とする便潜血検査キット「LZ テスト‘栄研’HbAo」を用いている。

八王子市において大腸がん検診・精密検査受診率向上事業を 2017 年度から 2019 年度まで実施したことを受け、今回、当院における同検診陽性率、精密検査受診率および陽性者の疾患について調査した。

【目的】

１、　八王子市大腸がん検診として、2014 年度～2023 年度の当院への検体提出件数3,039件に対し、以下を検証する。

①　当院と八王子市全体の集計報告との比較

②　便潜血反応陽性者の精密検査結果の集計

③　便潜血反応陽性者の大腸がんについての調査

２、　大腸がん検診で検体を提出した市民は毎年受検しているのかについて、2002 年度から当院に提出された検体を調査し、報告する。

３、　１、と２、より、市の大腸がん検診で早期に「がん」が発見できているのかを検証する。

【集計結果】

2014 年度～2023 年度に大腸がん検診で提出された検体数 3,039 件、そのうち陽性が 181 件（陽性率 5.9%）であった。

①　2021 年度の八王子市の大腸がん検診要精査率 5.4%に対し、当院は平均 6.1%と高い陽性率であった。

2021 年度の八王子市の大腸がん検診精密検査受検率 79.8%に対し、当院は平均 88.7%と高い受検率であった。

②　精密検査法の分類では下部内視鏡検査（77.３%）、注腸 X 線造影検査（8.３%）、大腸 CT 検査(3.３%)、検査未実施(11%)であった。

精密検査所見で多い順に内痔核(50%)、大腸ポリープ(49%)、大腸憩室(38%)、異常なし（13%)、大腸がん（9%)、大腸腺腫(4%)、腸炎(２%)、その他(14%)であった。

③　検診陽性者で大腸がんと診断された人数は 14 人、治療法としてポリペクトミー２人、EMR(内視鏡的粘膜切除術）３人、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）２人、大腸がん摘出手術７人であった。

病理検査結果より 14 人を「早期がん」と「進行がん」に分類すると、「早期がん」は７人、「進行がん」も７人であった。検診受検回数と「大腸がん」発見の関係では 14 人中７人が初回で発見され、残りの７人は２回以上で発見されている。「早期がん」は提出１回が５人、２回が１人、４回が１人、「進行がん」は提出１回が２人、２回が２人、３回が１人、５回が１人、19 回が１人であった。

大腸がんについて「大腸癌取扱い規約第８版」[*1] より、病理所見の壁深達度を T0、Tis(M)、T1a(SM)、T1b(SM)、T2(MP)、T3(SS・A)、T4a(SE)、T4b(SI/AI)に分類し、さらに病理所見、画像所見の結果を加えステージ分けし、進行度分類表上にプロットした。

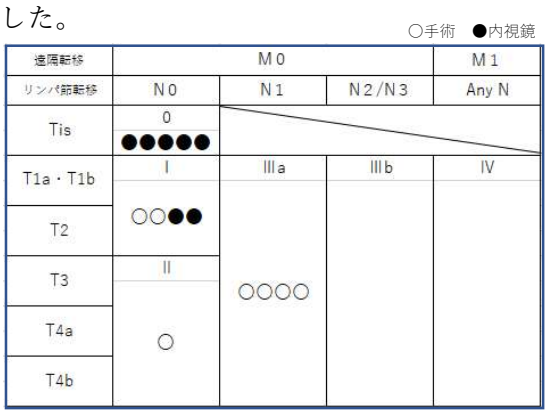

表１　第８版によるプロット表

加えて、5 年生存率の表にもプロットした。

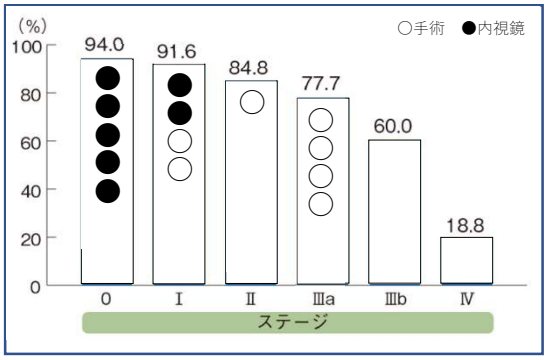

表２　第８版による５年生存率プロット表　＊2

2002 年度～2024 年度における大腸がん検診検体提出者は 2,411 人、そのうち当院で 1 回受検した人数は 1,469 人（61%）、2 回 412 人（17%）、3 回 203 人（8%）、4 回 95 人（4%）、5 回 71 人（3%）、6 回 49 人（2%）、7 回 32 人（1%）、8 回 21 人（1%）、9 回 18 人（1%）、10 回 19 人（1%）、11 回以上 22 人（1%）であった。

1 回提出者の 1,469 人のうち、1,165 人（79%）は、その後も患者として当院を受診、304 人（21%）はそれ以来受診がない。

【考察】

調査結果より、大腸がん検診で大腸がんが発見された割合は検診受検者中（陽性陰性含め）0.6%であった。これは約 200 人に 1 人の確率で大腸がんであった計算となる。

検診受検者の大腸がん病理結果所見で「早期がん」「進行がん」になる割合に差は見られなかった。これは精密検査が出血してから受ける検査であるためと思われる。

表 1 では低ステージに検診受検者が集中している。表 2 より 5 年生存率を算出すると平均は 88%であり、手術を受けた者に限定すると 83%であった。参考に当院にて大腸がんで手術を受けた者の 5 年生存率（2008 年度～2018 年度）は 74%であり、検診により早い段階で大腸がんが発見されているといえる。

検診で大腸がんを早期に発見するには毎年検査を行うとともに、大腸がん検診は遅くとも 55 歳までに始めることを推奨する。

なお、いかにして毎年続けて大腸がん検診を受検してもらえるか、当院としても検討していきたい。

＊1 大腸癌研究会　“大腸癌取扱い規約第 8 版“　金原出版，2013 より引用
＊2 大腸癌研究会　“大腸癌全国登録 2000～2004 年度別“　より引用